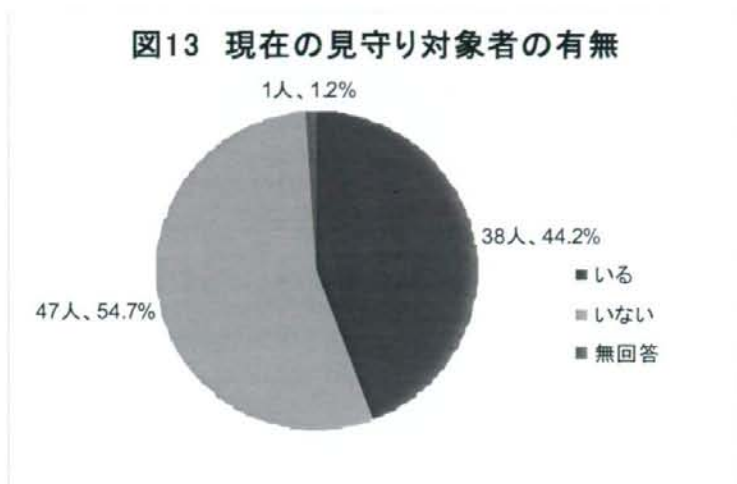


5) 見守り活動

(1) 見守り活動の対象者の有無

現在（過去3カ月含む）の見守り対象者の有無をみると（図13）、「対象者がいる」が38人（44.2%）で、「対象者はいない」が47人（54.7%）、不明1人（1.2%）であった。



現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた38人の性別は、男性は50.0%、女性は41.9%と、男性の方が女性に比べ見守り対象のいる割合が若干多かった（表8）。

表8. 性別にみた見守り活動の対象者の有無

項目	男性		女性		合計	
	人数	性別%	人数	性別%	人数	項目別%
いる	12	50.0	26	41.9	38	44.2
いない	12	50.0	35	56.5	47	54.7
無回答	0	0.0	1	1.6	1	1.2
合計	24	100	62	100	86	100

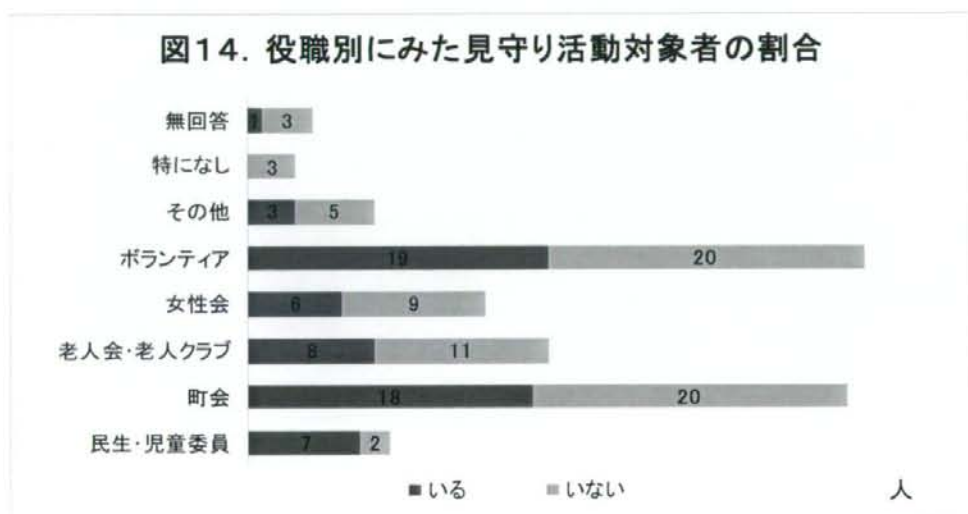
現在の見守り対象者の有無を役職別にみると（表9、図14）、民生・児童福祉委員が7人（77.8%）、ボランティア19人（48.7%）、町会18人（47.4%）などの役職の人に見守り対象者のいる割合が高かった。

表9. 役職別に見た見守り活動対象者の割合(複数回答)

役職名	いる		いない		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
民生・児童委員	7	77.8	2	22.2	9	100.0
町会	18	47.4	20	52.6	38	100.0
老人会・老人クラブ	8	42.1	11	57.9	19	100.0
女性会	6	37.5	9	56.3	16	100.0
ボランティア	19	48.7	20	42.6	39	100.0
その他	3	37.5	5	10.6	8	100.0
特になし		0.0	3	6.4	3	100.0
無回答	1	25.0	3	6.4	4	100.0
合計	38	100.0	47	100.0	86	100

*1人無回答

図14. 役職別に見た見守り活動対象者の割合



(2) 見守り活動の対象者

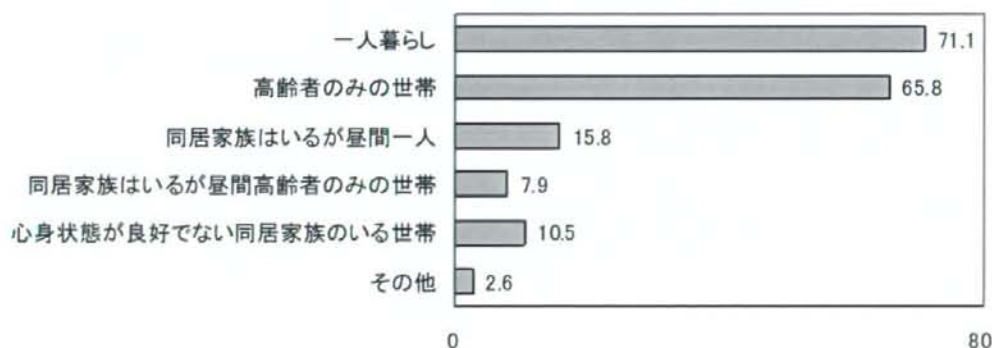
①世帯

見守り活動の対象者（複数回答）でその内訳に回答のあった38人を世帯別にみると（表10、図15）、「一人暮らし」が27人（71.1%）、「高齢者のみの世帯」が25人（65.8%）と、独居・高齢者のみ世帯が主な見守り対象である。

表10. 見守りしている対象者の世帯（複数回答）

世帯項目	人数	%
一人暮らし	27	71.1
高齢者のみの世帯	25	65.8
同居家族はいるが昼間一人	6	15.8
同居家族はいるが昼間高齢者のみの世帯	3	7.9
心身状態が良好でない同居家族のいる世帯	4	10.5
その他	1	2.6
合計	38	100.0

図15. 見守りしている対象者の世帯



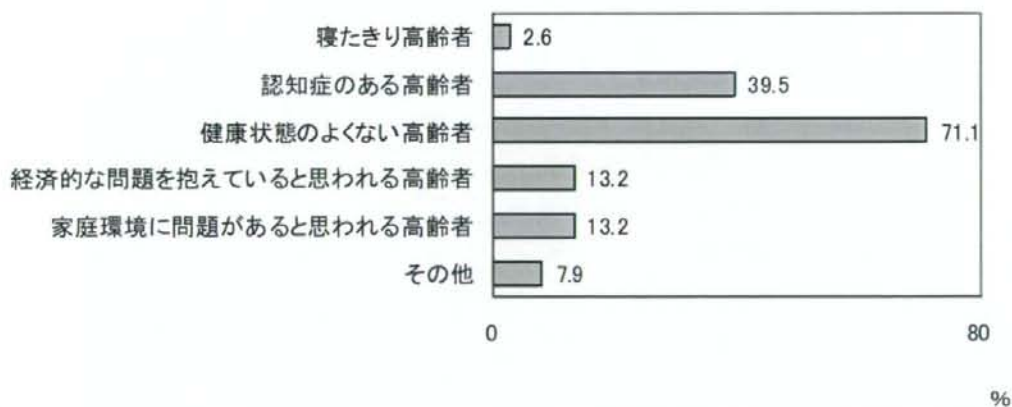
②状態

見守り活動の対象者で回答のあった38人を状態別にみると（表11、図16）、健康障害や認知症・寝たきりの高齢者などの健康問題をかかえた状態が主であるが、経済面・家庭環境の問題も捉えられている。

表11 現在の見守り活動対象者の有無(複数回答)

状態項目	人数	%
寝たきり高齢者	1	2.6
認知症のある高齢者	15	39.5
健康状態のよくない高齢者	27	71.1
経済的な問題を抱えていると思われる高齢者	5	13.2
家庭環境に問題があると思われる高齢者	5	13.2
その他	3	7.9
合計	38	100.0

図16. 現在の見守り活動対象者の有無

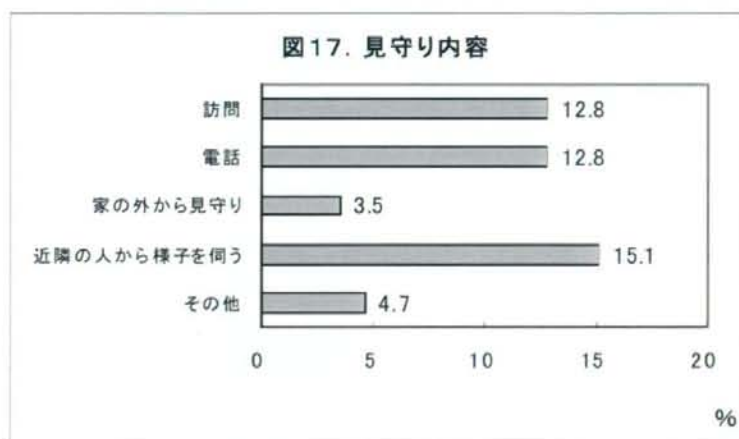


③方法

見守りの方法別にみると（表12、図17）、主たるものは協力員・近隣から伺う訪問や電話での見守りであったが、家の外からの見守りや、近隣等と協働で行っているなどであった。

表12. 見守り内容(複数回答)

	人数	%
訪問	11	12.8
電話	11	12.8
家の外から見守り	3	3.5
近隣の人から様子を伺う	13	15.1
その他	4	4.7



(3) 見守りしている人数と頻度

①人数

見守りしている人数は、訪問では24人、電話では25人、屋外からの見守り21人、近隣から情報を得る39人、その他4人であった。民生委員等の一人当たりの見守り者数は表13に示すとおりである。

表13. 見守り対象者の人数

	訪問		電話		屋外からの見守り		近隣からの情報を得る		その他
	人数	見守り者人数	人数	見守り者人数	人数	見守り者人数	人数	見守り者人数	人数
1人	2	2	2	2	1	1	3	3	
2人	5	10	4	8	1	2	4	8	
3人	4	12	5	15	-	-	3	9	
4人	-	-	-	-	1	4	1	4	
5人	-	-	-	-	-	-	1	5	
10人	-	-	-	-	-	-	1	10	
計	11	24	11	25	3	21	13	39	4

②頻度

見守りの頻度は回答のあった内容では、訪問では3日に1回が2人、1週間に1回が1人、10日に1回が1人であった。電話では、毎日の人も1人あり、2～3日に1回、4日に1回、1週間に1回の人がそれぞれ1人ずつであった。「屋外からの見守り」では3日に1回が2人、10日に1回の人1人であり、「近隣からに情報を得る」では毎日が3人、3日に1回が2人、週1回が1人であった。なお、現在の見守り方法や頻度についての回答のあった26人の自己評価では、「適当である」が25人であり、見守り対象者がいると回答した38人に占める割合では65.8%となる。また、「変更の必要がある」は僅か1人(2.6%)であった。(表14)

	訪問(人)	電話(人)	屋外からの見守り
1週間に1回以上	3	4	2
2週間に1回以上	1	0	1
月1回程度	0	0	0
2カ月に1回程度	0	0	0
	4	4	3

③見守り基準

見守り基準に記載のあった具体的な内容は表15のとおりである。

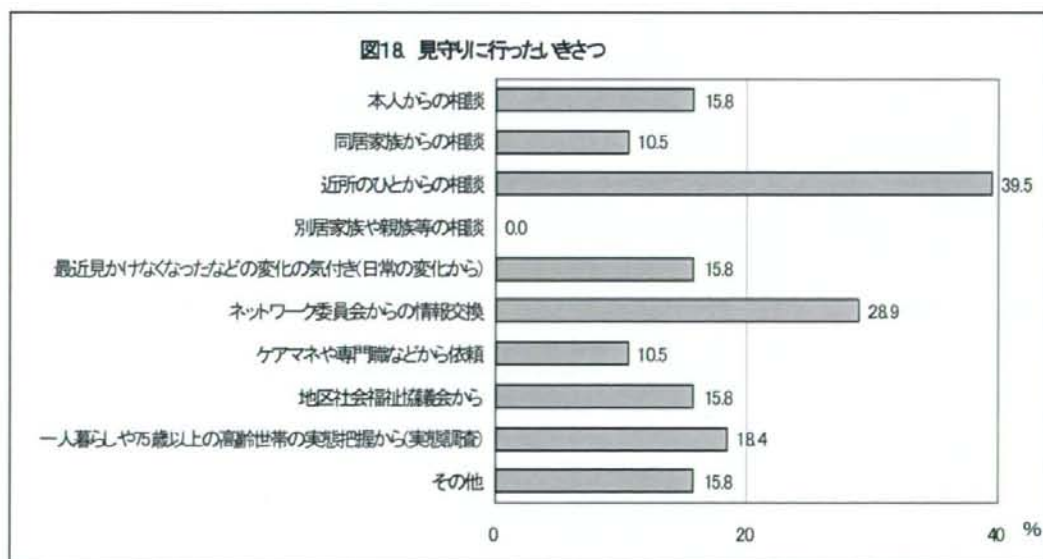
・ヘルパーが入っている所は迷惑にならないように気をつけている。家への訪問は特別な時以外は行わない。
・福祉会館への出席状況、献立・材料状況。
・月例の行事に何人参加できているか。
・ふれあい喫茶に毎回出席できるかどうか。
・小学校・中学校生徒の下校時の見守り隊として児童の安全を見守っています。

(4) 見守りに至ったいきさつ

見守りに行ったいきさつを回答のあった38人の内訳をみると（表16、図18）、「近所の人からの相談」が15人、「ネットワーク委員会からの情報交換」が11人、「一人暮らしや75歳以上の高齢者世帯の実態把握から」が7人と多くを占めた。

表16.見守りに行ったいきさつ(複数回答)

項目	人数	%
本人からの相談	6	15.8
同居家族からの相談	4	10.5
近所のひとからの相談	15	39.5
別居家族や親族等の相談	0	0.0
最近見かけなくなったなどの変化の気付き(日常の変化から)	6	15.8
ネットワーク委員会からの情報交換	11	28.9
ケアマネや専門職などから依頼	4	10.5
地区社会福祉協議会から	6	15.8
一人暮らしや75歳以上の高齢世帯の実態把握から(実態調査)	7	18.4
その他	6	15.8
合計	38	100

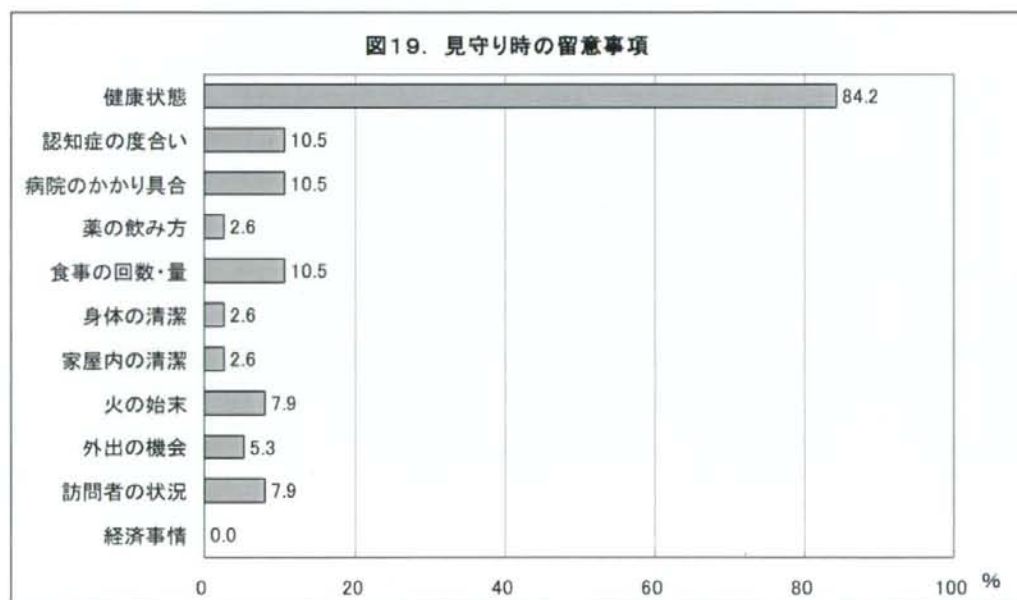


(5) 見守りの際の留意事項

見守りの際に注意していることを項目別にみると（表17、図19）、「健康状態」が32人（84.2%）と多いが、多岐にわたり留意されていることがわかる。

表17.見守りの際の留意事項（複数回答）

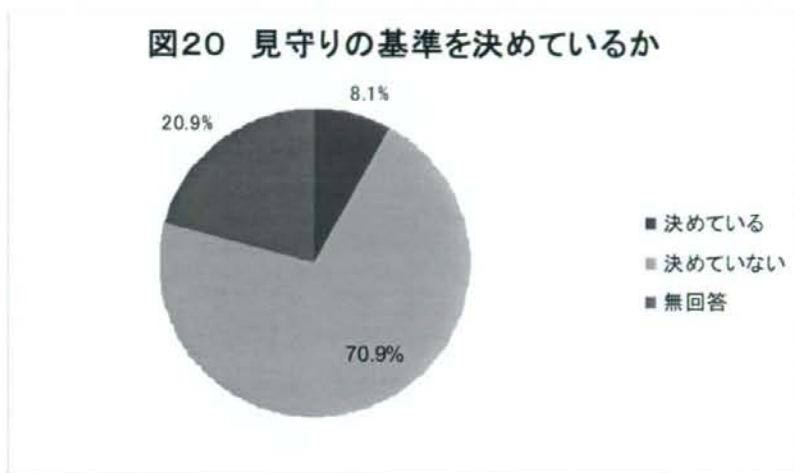
項目	人数	%
健康状態	32	84.2
認知症の度合い	4	10.5
病院のかかり具合	4	10.5
薬の飲み方	1	2.6
食事の回数・量	4	10.5
身体の清潔	1	2.6
家屋内の清潔	1	2.6
火の始末	3	7.9
外出の機会	2	5.3
訪問者の状況	3	7.9
経済事情	0	0.0
合計	38	100



(6)見守り基準の有無とその内容

①有無

見守り基準の有無をみると（図20）、「決めている」が7人（8.1%）、「決めていない」が61人（70.9%）、「無回答」が18人（20.9%）であった。校区で見守り基準を決めているのではなく、それぞれが自分の基準で行っている割合が高かった。



②内容

見守りの基準の有無で「決めている」と答えた人で、その具体的な内容が記載してあったのは表18のとおりである。

表18. 見守りの基準により早期に対応できた事例
・倒れている老人を発見し対応したことをその方から聞いた。
・声を掛け合い、誘い合わせて来る。
・お誘いをすれば食事サービス来てくれます。
・サラダや材料の柔らかいものへの変更、出席人数が増え皿数を増やす。

③早期に対応できた事例の有無

校区内における見守りの基準の有無で「決めている」と答えたもので、見守りの基準により早期に対応出来た事例の有無をみると、「ある」が10人、「ない」が8人であった。早期対応した事例が書かれていた2事例については、「保健センターや地域介護に相談して入院することができた。」「近所の人の通報及び月1回しているサロンの案内配布により状況がわかったことがある。」などの記載があった。

(7) 見守りの効果

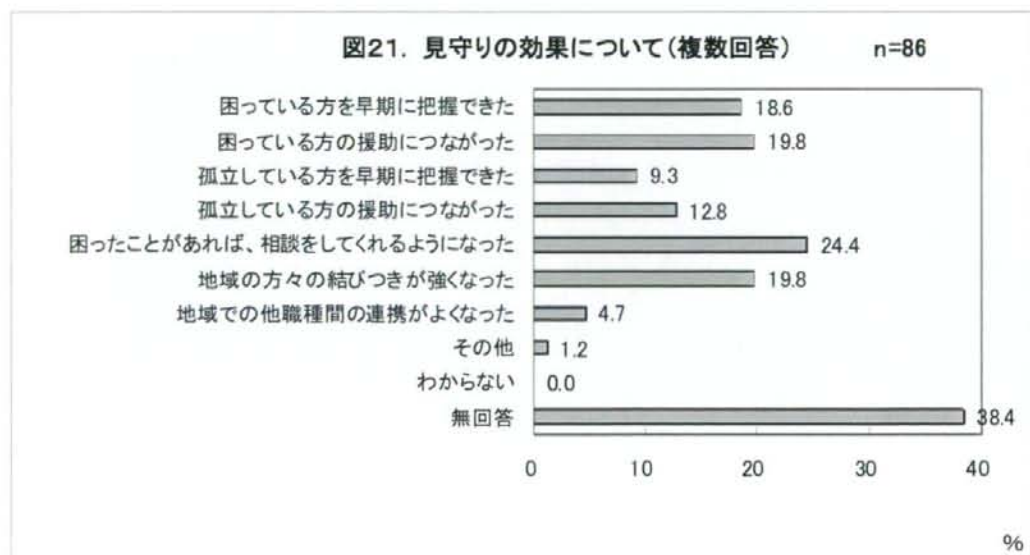
見守りの効果を項目別にみると（表19、図21）、見守りが次の援助につながったり、早期把握、地域の結びつき・連携に影響していると回答されている。

表19. 見守りの効果について(複数回答)

内容	人数	%
困っている方を早期に把握できた	16	18.6
困っている方の援助につながった	17	19.8
孤立している方を早期に把握できた	8	9.3
孤立している方の援助につながった	11	12.8
困ったことがあれば、相談をしてくれるようになった	21	24.4
地域の方々の結びつきが強くなった	17	19.8
地域での他職種間の連携がよかった	4	4.7
その他	1	1.2
わからない	0	0.0
無回答	33	38.4
	86	100.0

図21. 見守りの効果について(複数回答)

n=86



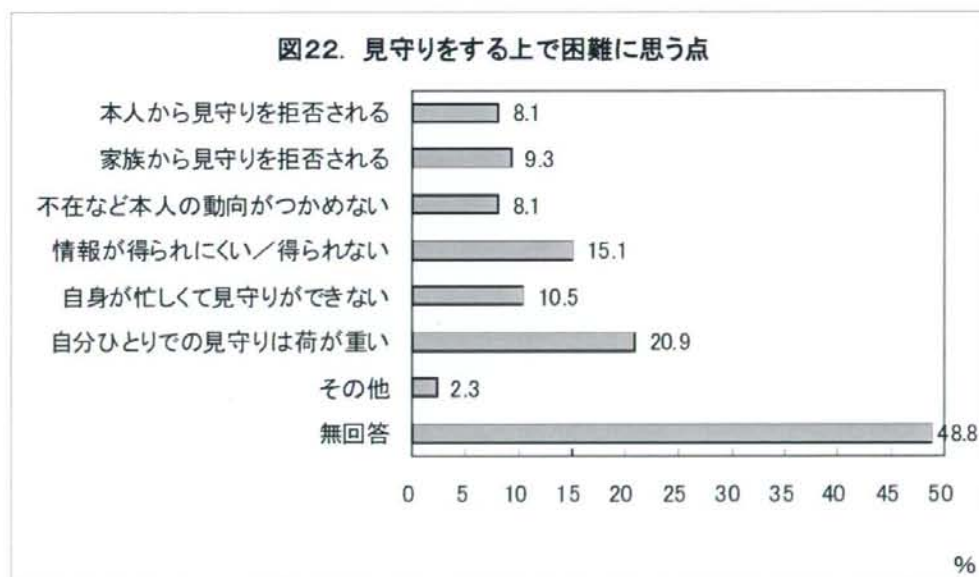
(8) 見守りの困難な点

見守りの困難な点は、情報が得られにくい、不在など本人の動向がつかめない、という見守り対象の状況がわからないという点と、自分ひとりでの見守りは荷が重いという点、本人や家族から見守りを拒否される点があげられた。(表20、図22)

表20. 見守りをする上で困難に思う点(複数回答)

内容	人数	%
本人から見守りを拒否される	7	8.1
家族から見守りを拒否される	8	9.3
不在など本人の動向がつかめない	7	8.1
情報が得られにくい／得られない	13	15.1
自身が忙しくて見守りができない	9	10.5
自分ひとりでの見守りは荷が重い	18	20.9
その他	2	2.3
無回答	42	48.8
	86	100.0

図22. 見守りをする上で困難に思う点



見守りの困難な点に対する解決策では、「あり」と記載のあった15人の内容は、地域の人々の協力を得ると言う意見が多く、行政や、ケアマネジャーとの連携の必要性などがあげられていた。また、民生委員の方からは、役職の兼務を減らすことで、見守りに専念できる可能性が記載されていた。(表21)

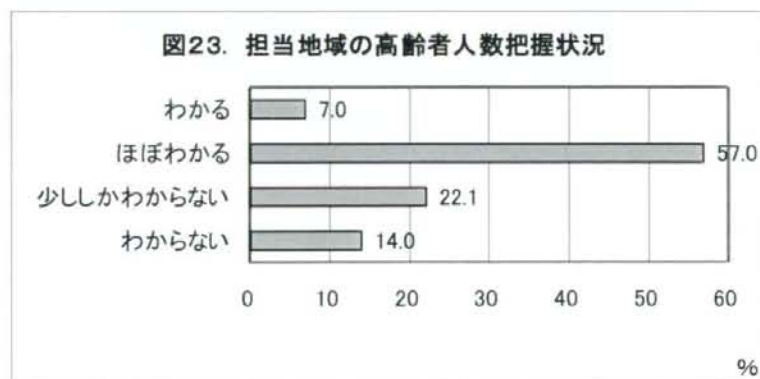
表21.「見守りをするうえでの困難」に対する解決方法
・ボランティア、町会役員との連携が必要。
・ときかく出会ったときがチャンス、その時とばかりおもしろおかしくしゃべる。
・訪問時間の変更、及び根気よくいろいろな方法で動向の収集。
・情報交換、一致団結。
・いろいろな事例、情報交換をする。
・プライバシーと相続問題、犯罪に結びつく。
・こまめに連絡を取る。情報の提供をする。
・ボランティアの人数を増やす、声かけをする。
・人と人とのつながりをよくする。情報交換を頻繁にする。
・ほどほどの距離を置く方が良いと思っている。中には全てを嫌がる人もいる(知られると)。
・どこまで深く踏み込んだらよいのか分からない。
・声かけが難しい、高齢者は話しやすい。
・あまり深く関与できない、表面的になることが困難な点である。認知症の方は変化の状態で話が出来るときもあるが、家族との同居をどこまで家族と話し合えるか。

(9) 担当地区の高齢者の人数の把握の有無

担当地区に住んでる高齢者の人数把握についてみると(表22、図23)、「わかる」が6人(7.0%)、「ほぼわかる」が49人(57.0%)で、この二項目でほぼ6割を超えた。

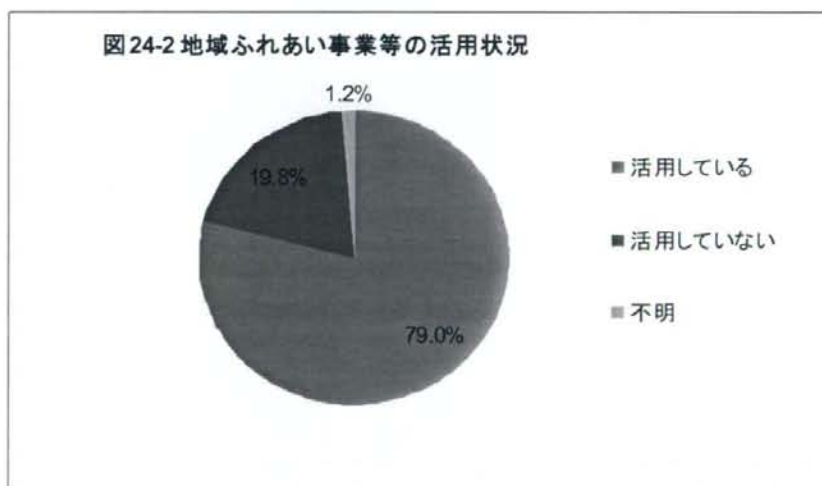
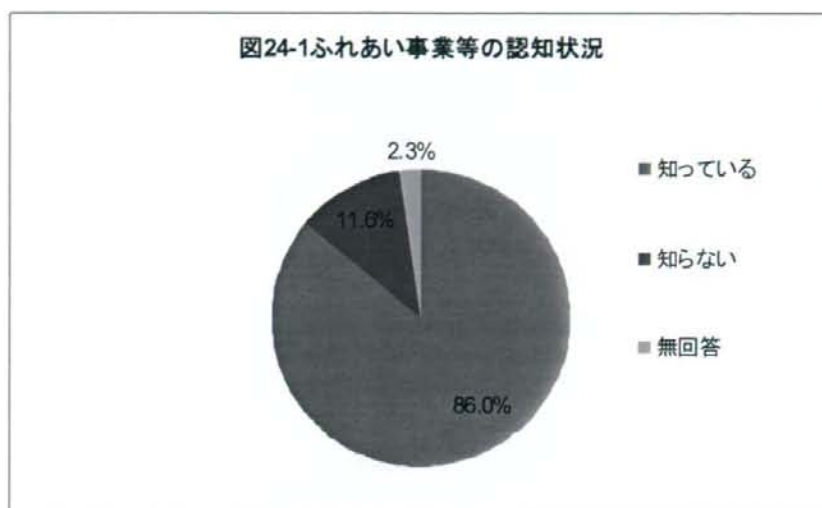
表22. 担当地域に住んでいる高齢者人数を把握しているか

	人数	%
わかる	6	7.0
ほぼわかる	49	57.0
少ししかわからない	19	22.1
わからない	12	14.0
合計	86	100



(10) ふれあい事業の認知状況・活用状況

ふれあい事業の認知状況については、知っている人は74人（86.0%）を占め、活用状況では68人（79.0%）が活用していると回答していた。（図24-1、24-2）



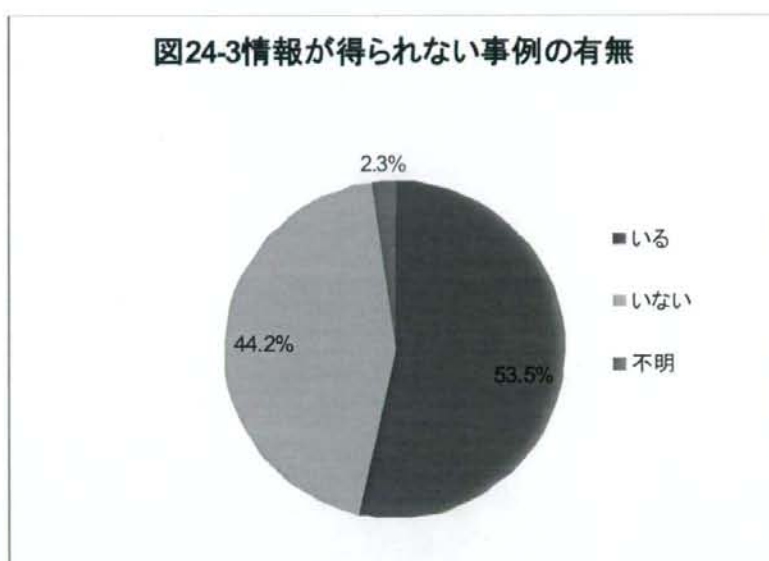
(11) 担当地区の高齢者で情報が得られにくい方の有無

担当地区の高齢者で情報が得られにくい方の有無をみると（表 23、図 24-3）、「いる」と答えたものが46人（53.5%）、「いない」と答えたものが38人（44.2%）、「無回答」が2人（2.3%）であり、5割強の人が「いる」と回答していた。

表23情報が得られない事例の有無

カテゴリ	件数	(全体)%
いる	46	53.5
いない	38	44.2
不明	2	2.3
サンプル数(%ベース)	86	100.0

図24-3情報が得られない事例の有無



(12) 見守り活動についての意見

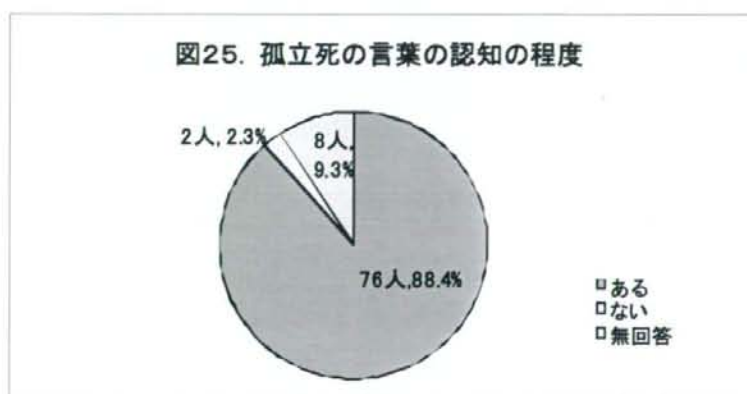
見守り活動について自由に回答していただいた内容を表24に示した。認知症高齢者に対する対処で困っているという意見と共に、民生委員との連携で見守りがうまくいった記述があった。また、さりげなく支えていくことや、隣近所が協力し合うことの大切さなどと共に、行政から見守り対象者の名簿等の提供を希望する意見などが述べられていた。

表24. 見守り活動への意見
・一人暮らしの高齢者本人から1日に一度は元気とか、健康状態が良くないとかの知らせの目印がほしい
・ボランティア活動として大人、子ども、老人と定めることなく、声をかける事が大切だと思う。
・町会で高齢者のふれあい会を月1回開催していると来てくれている人の元気な姿が見られるのでいいと思います。
・少しは目先の変わったレクリエーションを取り入れたり、新しい試みに挑戦していけたらいいと思う。
・食事サービスの時、材料の切り方、選び方を工夫するようになった。
・各町会(ほぼマンション、または団地棟毎)で高齢者の把握は出来ているし、近隣等が気配りしている。中には拒否する人もいて、周囲の人の心配を外にと言うこともあるが、個人情報・プライバシーの侵害という壁に当たることもある。
・集会所、特に地域の方が利用される所は集会所の広場を街灯をつけて明るくするようにしてほしいです。特に中高生の犯罪が多くなっていますので。夏は花火等で後始末が悪い。

6) 孤立死の状況

(1) 孤立死の言葉の認知の程度

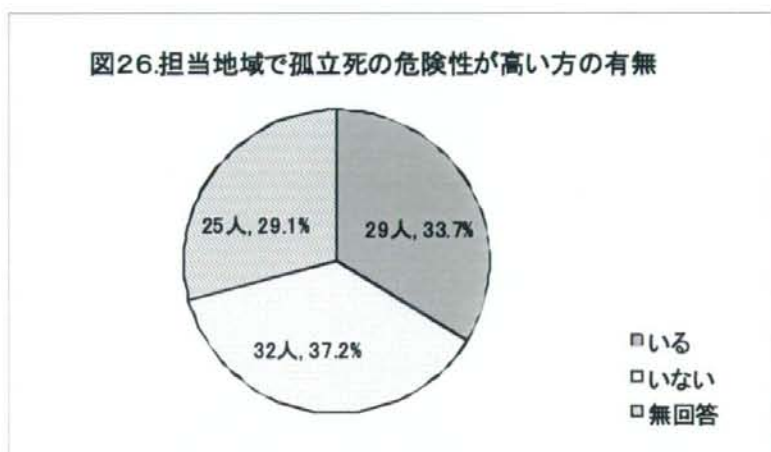
「孤立死という言葉を知ったことがあるか」という問いに対し、「ある」と答えた者は76人(88.4%)で約9割が聞いたことがあると答えた(図25)。



(2) 担当地区で孤立死の危険性が高いと考えられる方の有無

①有無

「担当地域で孤立死する危険性が高いと考えられる方はいるか」という問いに対し、「いる」と答えた者は29人（33.7%）で「いない」と答えたものは32人（37.2%）、「無回答」は25人（29.1%）であり（図26）、全体の3分の1の人は危険性の高い人がいると回答している。なお、無回答の人は正確な情報が得られないなどの理由によって明確な回答が出来なかったのではないかと推察される。



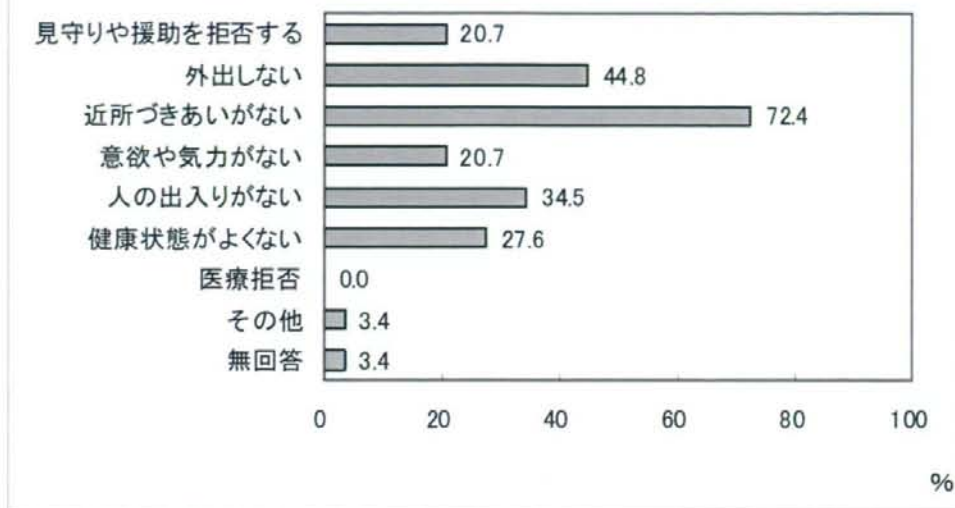
②理由

前の質問において、孤立死の危険性が高いと回答した29人に、その理由を回答してもらった。表25、図27をみると、健康状態がよくないことよりも近所付き合いがない、外出しない、人の出入りが少ないことが孤立死のハイリスクと認識されていることがわかる。

表25. 孤立死の危険性が高いと考える理由(複数回答)

項目	人数	%
見守りや援助を拒否する	6	20.7
外出しない	13	44.8
近所づきあいが少ない	21	72.4
意欲や気力がない	6	20.7
人の出入りが少ない	10	34.5
健康状態がよくない	8	27.6
医療拒否	0	0.0
その他	1	3.4
無回答	1	3.4
	29	100.0

図27. 孤立死の危険性が高いと考える理由

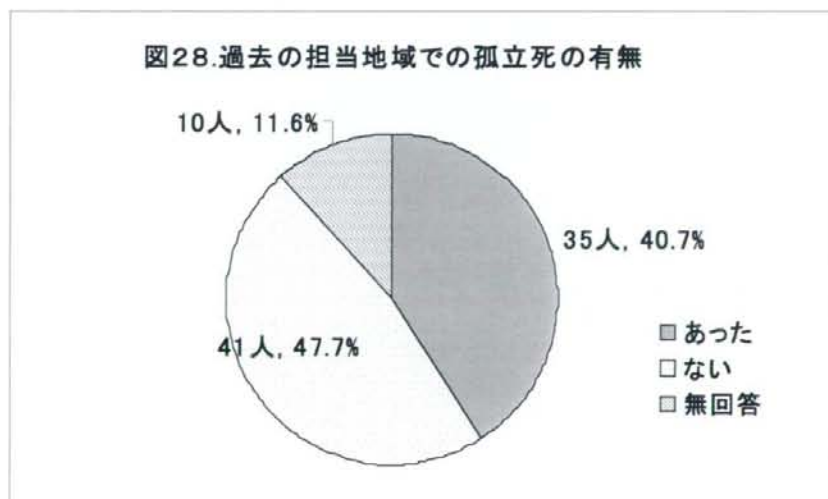


(3) 過去の担当地区での孤立死の有無

①有無

「過去に担当地域で孤立死があったか」という問いに対し、「あった」と答えたものが35人 (40.7%)、「ない」と答えたものが41人 (47.7%)、「無回答」が10人 (11.6%)であり、4割強の人が孤立死があったと回答している (図28)。

図28.過去の担当地域での孤立死の有無



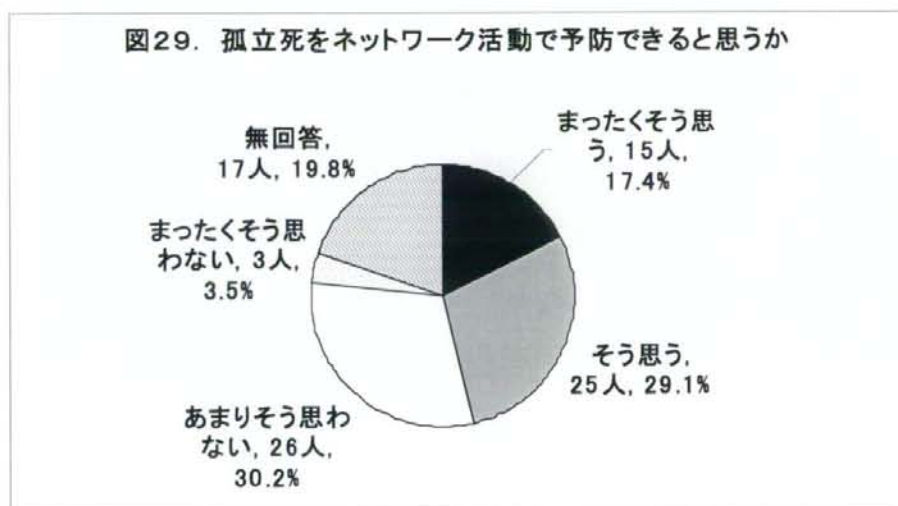
②様子

地域であった孤独死事例の概要を表26に示した。

表26. 孤立死の事例内容について
・風呂のシャワーの音がずっと聞こえるので近所の人に話して中へ入ったところ風呂の中で亡くなっていた。
・夫婦で女性が認知症、男性が病弱で寝たり起きたりの生活。近所付き合いなし。隣の人も気づかないほど出入りが無い。時々男性を見かけたが数日姿が見ないことに気づき声をかけるが、音がしない。中で男性が死亡、女性が側で寝ていた。
・マンションで死亡していて管理人が発見。
・一人住まいで死後1カ月後判明という方があったと聞いたことがある。
・独居老人で生活の気配がない、2日目に窓を破って入ったら死んでいた。
・風呂場での死亡。
・よく分かりません。独居で一週間程経ってから発見されたとのこと。
・わからない。
・健康状態が悪いのに、酒を大量に飲みすぎ倒れている場合。また心筋梗塞、脳梗塞等で死亡している。

(4) 孤立死の見守りネットワークでの予防の可能性の有無

「孤立死を『見守りネットワーク』で防げるか」という問いに対し、「まったくそう思う」と答えたものが15人(17.4%)、「そう思う」と答えたものが25人(29.1%)で、4割強の人が見守りで防げると回答している(図29)。



(5) 孤立死を防ぐための方法の提案や意見

① 家族や本人ができること

家族や本人ができることについては15人の記載があり、日常的に家族や近所との付き合いや連絡を取り合うようにすることがあげられた（表27）。

表27. 孤立死予防対策として①本人・家族が出来ること
・連絡を密にする、時間がある限り訪問する。
・向こう三軒両隣と言う前に家族の方は日頃からなるべく近所の人達とお付き合いをすることが大事なことだと思います。
・本人一人住まいが多いので、行政、連絡機関にスムーズに連絡できる道具を渡すこと。
・自分自身の心の問題だと思うので何かにつけ注意し、いざという時は専門機関に相談を持ちかけたいと思う。
・普段から良く連絡し合うことと思います。
・限度がある
・私を含め高齢者で一人暮らしの人が増えています。もっといろんな事を教えてもらって自分と一緒に活動していきたい。
・連絡先を知らせておく。
・家族との連絡を十分取ること、電話、住所の確認
・本人の話を良く聞いてあげる。本人は何でも話すこと。
・家族ではよく話し合うこと。
・家族は同居すること。また病状によっては専門の機関か施設にしかるべき手続きをすることが望まれます。外出するなど活動可能な方は地域とのふれあいを。
・家に引きこもらず、積極的に地域活動に参加する。
・日常連絡は必ずすること。または近所の方にお問い合わせするなど。

②地域でできること

身近な隣近所等で声をかけたり、訪問したり、情報交換をすることなどが多かった（表28）。

表28. 孤立死予防対策として②地域でできること
・食事の配達サービスをしてあげたい。
・声をかける、家族を把握する。
・沢山のボランティアを養成し、住民一人ひとりが意識を持って見守る。
・相手の方に拒否されてもご近所の方を通じて声かけをしたり、町会の役員、民生委員さんに連絡を取り、気をつけて見守ってあげれば多少は防げると思います。
・声かけがいいと思います。立ち話でも良いし、ちょっとしたことでも話したくなり、そのうちにいろんなお話が聞かせて頂け、またこちら側からも少しはアドバイスが出来るのではないのでしょうか。
・個人情報と言うことで、そういう意識が働いてどこまで関わっていいものか分からない場合が多い。
・高齢者友愛訪問。
・町会役員達で気をつけること。
・お隣とか、近くに住んでいる人をよく知っておいて連絡しあう事と思います。
・話し合う場や訪問の機会をつくと良い。
・できる限り訪問してあげる。
・訪問介護、声かけ、情報交換の場を多く持つこと。
・限度がある。
・近所の人との付き合いを大切に。
・楽しい行事に気軽に参加してもらえるよう他の人の例を話す。
・話し相手になってあげ、度々顔を見に行き、その人の気持ちを和らげてあげたらよいと思う。
・地域では情報交換をたびたびすること。
・見守りが必要な方に対する対処・ケアを議論して欲しい。家族・後見人との話し合い。組織としての体制確立。
・地域活動へ参加を促していく。

③行政および専門機関に求める役割

個人情報保護に関連して活動が出来にくくなっている部分への関与や、情報を判りやすく提供して欲しいこと、場所や資金の提供を求めることが多かった（表29）。

表29. 孤立死防止として③行政及び専門機関に求める役割
・地域で把握できない情報を教えてほしい。個人情報に阻まれて段々動きにくくなっている。
・行政も把握したら道具か訪問か計画的に考えてほしい。
・行政しかできないと思う。
・場所や資金の提供をして欲しい。
・話し相手にあってあげ、度々顔を見に行き、その人の気持ちを和らげてあげられるための資金援助を行政はして欲しい。
・些細なことでもふれあいの場を作れるよう資金援助をしてほしい。
・独居住人の把握、相談窓口等、分かりやすく提示する。
・行政と地域の住民交流を深め、高齢者に分かりやすく相談・説明をやっていただきたい。